

韓国環境部プレスリリース 2020年2月20日付

ASF 中央事故収拾本部長、2月14日の華川郡現場対策会議のフォローアップ措置の履行状況を確認

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1322620&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

【ポイント】

日時及び場所：2020年2月21日（金）16：00～17：00 /江原道 ASF 現場状況室

参加者：ASF 中央事故収拾本部長主宰、農食品部、環境部、国防部、国務調整室、江原道、華川郡、京畿道関係官

<2月14日、現場対策会議の主なフォローアップ事項>

- ・3段階広域フェンス区間のうち自然境界を最小化して補完
- ・楊口南北縦断フェンス（2つのルート）と華川地域広域フェンス未設置区間のうち村地区59か所の迂回フェンス設置
- ・へい死体調査、銃取得のエリア別・日程別の人材投入計画用意
- ・自治体の農場単位防疫措置のチェック

イノシシ管理対策と農家単位の防疫措置の迅速な履行のために農食品部・環境部など4の関係部署と江原道庁など地方自治体で構成された「江原道 ASF 現場状況室」設置

【本文】

○ASF 中央事故収拾本部長（キム・ヒョンス農林畜産食品部長官、以下「本部長」）は、2月14日、華川郡現場対策会議で議論された事項を確認するために、江原道 ASF 現場状況室を訪問する。

○中央事故収拾本部は、2月20日（木）から、ASF 関連対策の現場履行状況を総合管理するために、江原道庁に「ASF 現場状況室」を設置して運営している。

○「現場状況室」は、環境部（チーム長）を中心に農食品部、国防部、行安部の4つの部署と江原道、華川郡など自治体関係官で構成し、フェンス設置、イノシシ捕獲、へい死体調査、猟師管理、農場ブロック防疫などの現場の防疫推進状況を点検し、速やかに対応する計画。

□本部長は、2月14日、華川郡の現場を訪問して、野生イノシシ、ASF 拡散を迅速に遮断するための広域フェンス設置、野生のイノシシへい死体調査、農場単位防疫など ASF 防疫措置の対策会議を開催した。

○環境部は華川から古城まで接続する3段階広域フェンスのうち絶壁がある区間を除いた

大部分の自然境界区間についてフェンスを2月25日まで設置することにした。

イノシシの東進遮断のため楊口地域に3段階広域フェンスと南方限界線を接続する南北縦断フェンス2路線、楊口亥安盆地（Punchbowl）南側のバイパス区間なども追加設置している。

華川郡広域フェンス未設置区間のうちのフェンス機能を代替していない村地域59か所は村の裏で迂回フェンスを設置している。

2月末から村の住民をフェンス管理員として雇用し、ドア開閉、フェンス毀損などを迅速に措置する計画だ。

○へい死体の調査のために、2次フェンスと広域フェンス内外を68の地域に区画化して、約300人の従業員を投入している。

○銃捕獲もイノシシ除去班（100人）、市・郡機動捕獲団を集中投入して、広域フェンス内のイノシシを捕獲する。

○農場内へい死畜の保管を禁止し、石灰塗布などの農場単位防疫強化のために防疫措置の点検も強化した。

特に京畿・江原北部地域に隣接する南楊州・加平・春川・洪川・襄陽の5市・郡は農食品部と地方自治体合同点検班がフェンス設置の有無をチェックし、不十分な点を迅速に補完するようにし、週1回自治体で持続点検するようにした。

□キム・ヒョンス本部長は、「ASF現場状況室」を訪問して3段階広域フェンスと楊口南北縦断フェンス、自然境界補強区間などの設置、へい死体の調査、農家防疫措置等の各機関別の措置の状況について点検する予定である。

○フェンスが遅れる区間への対策とへい死体調査・銃捕獲の具体的な計画などを関係者と深く議論する計画である。

以上